

## 2015 年度聖書の集い（第 5 回）

2015 年 11 月 4 日

桃山基督教会 古本 靖久

<http://momoyama.hannnari.com/>

- 1、聖歌 548 番 「しずけき祈りの ときはいと楽し」
- 2、お祈り
- 3、聖書 「マタイによる福音書 6 章 5 節～8 節」（新約聖書 9 ページ）
- 4、今日の内容

### 神さまってどんな方？「⑤ お祈りを聞いてくださる方」

今月のテーマは「お祈り」です。幼稚園ではよくお祈りをします。礼拝の中で、ご飯の前に、またおやつの前に。運動会や入園式の時にもお祈りをします。

しかしお祈りをするのは、キリスト教に限ったことではありません。ご自宅の仏壇や神社など、様々なところでわたしたちは「目に見えない」存在に対して語りかけているのではないのでしょうか。

今日はこの「お祈り」について、少しだけ考えてみたいと思います。

### ① いつも祈ります

「苦しい時の神頼み」という言葉があります。わたしの実家は福岡ですが、お正月になると太宰府天満宮という神社は人であふれかえります。その神社は学問の神様といわれている菅原道真が祀られており、受験生はこぞってお参りし、絵馬を書いたりお守りを買ったりします。

キリスト教でも同じように、病気の時やどうしようもなく苦しい時など、神さまにお祈りをします。しかし大事なものは「いつも祈る」ということです。そして「ありがとう」を言うことなのですね。

わたしも一日の終わりの祈りの中で、まず感謝することをあげるようにしています。意識して思い返すと、うれしかったこと、楽しかったことが多く感じられます。その一つ一つの出来事に対して、「神さま、ありがとう」と言うのです。

## ② 願う前に聞いてくださる

しかし、わたしたちはやはり「お願い」を聞いて欲しいのではないのでしょうか。自分の欲望をかなえて欲しいというお願いならともかく、家族が幸せになって欲しいとか、子どもが元気に育ってほしい、世界の人たちが仲良く暮らしてほしい、そのような祈りは、どんな宗教でも同じようにします。

しかし聖書には、このように書いてあります。

あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。

父とは、聖書の中では神さまのことを指します。神さまはわたしたちが祈る前に、わたしたちが何を求めているのかを知っているというのですね。

このことを、わたしたちと子どもたちとの関係の中で考えてみたいと思います。わたしたちは子どもたちが何を望んでいるのか、よく分かっています。でも親として、これを今は与えられない、ここは何とか自分の力で乗り越えて欲しい、このように考えることもあると思います。

神さまも同じように、わたしたちの願いを聞いてくださっているのです。

## ③ 神さまとの対話

しかし、祈る前から神さまがわたしたちの必要とするものを知っているなら、なぜ祈るのでしょうか。それは、祈りとは神さまとの対話でもあるからです。

わたしはお祈りの時に「天の神さま」と始めますが、イエス様は「アッバ、父よ」と呼びかけられたことがあります。その言葉は「おとうちゃん」という幼児が父親を呼ぶ言い方です。つまりお祈りは、親密な関係の中での会話でもあるのです。

どうしても「お祈り」と言いますと、かしこまった場所で決められた時間に、と考えがちですが、そうではないのですね。ふとした時に、「神さま、ありがとう」。ちょっといけないことをしたときに「神さま、ごめんなさい」。それも立派なお祈りなのです。

神さまはいつでもわたしたちの「祈り」を聞いてくださっています。いつでも自分の話を聞いてくれる存在がいる。子どもたちにとって、その存在は神さまでもあるし、皆さんでもあります。また皆さんの心の叫びをも、神さまはいつも聞いてくださるのです。どうぞ、どんなことでもいいです。神さまに語りかけてみてください。